

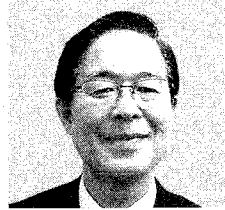
マス商事

サービス専門会社稼働

海外強化
インドに現地法人設立

製造装置商社・マス商事は車載、産機などを重点に掲げ、表面実装機を中心とした取扱製品を拡充するとともに、海外強化やサービス体制の充実に取り組んでいる。

表面実装機を中心に取扱製品拡充



高城 副社長

同社はヤマハ発動機（ロボティクス事業部）代理店として、マウンタを中心にプリント基板外観検査装置、クリームはんだ印刷機など表面実装ラインに關わる装置を幅広く扱う。はんだ付け装置（リフロー装置）などヤマハ以外の取り扱い製品も多い。

国内のほか、海外展開する日系企業向けのビジネスに対応して中

国（蘇州・深圳）、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシア、タイ、ベトナム、メキシコに営業拠点を構えている、高城久副社長は「19年度上期（18年10月～19年3月）の売上は中国経済の減速による影響はあったものの、国内、海外ともにほぼ期首計画通りの実績で終えることができた。下期は市場の動向を慎重に見ているが、こうした時期こそ社内体制を整え、次の発展に備える」と語る。

サービス体制強化の一環として、サービス専門会社「マス・エンジニアリングサービス」（横浜市新横浜、マス商事本社内）を設立し、このほど稼働した。従来、国内外のサービス体制を拡充しているが、専門会社を設けることで、顧客の身近な場所での付加価値の高い技術サポートを強化する。

現地法人化した。インドの駐在員事務所は14年に開設し、日系顧客のサービスを中心に活動を行ってきたが、現

地法人化により営業活動も強化する。

高城副社長は「下期は車載、部品、インフラ、5Gなどに重点を置く。家電も白モノや4K、8Kなどテレビ向けの基板実装にも期待。X線検査機をさらに強化する。X線検査機はデバイスの内部解析の需要がある」と述べる。

新規商材として取り組んでいる産業用ロボットは、引き続き事業の拡大に取り組む。ヤマハ発動機と川崎重工業の製品を扱い、SI（システムインテグレーション）事業者とも連携する。電機業界に絞って販売しており、電子部品関連の実装機の顧客など実績が上がり始めている。